

今年4月から学校が完全週5日制になり、合わせて新しい学習指導要領が実施されました。新学習指導要領の一番の特徴は、従来の教育内容を約3分の2に削減し、「総合的な学習の時間」を創設したこと。「生きる力」の育成を目的とした総合的な学習ですが、その授業内容はどのようなものなのでしょうか。また、教科学習の時間削減が子供の学力低下につながる恐れはないのでしょうか。

ゆとりの中で「生きる力」を育む

学習指導要領とは、国内のどこにいても誰もが一定の基準の教育を受けられるよう、各学校がカリキュラムを作成するときの基準となるものです。今回の改訂では、ゆとりの中で「生きる力」を育成することを主眼として、教育内容を3割程度削減し、小学3年生以上と中学、高校に「総合的な学習の時間」を創設したことが特徴です（高校の実施は来年度から）。

総合的な学習の時間は体験的な学習を推奨するものであって、知識を教え込むことが目的ではありません。新学習指導要領は平成10年12月に告示され、3年以上にわたる準備期間を経て、今年4

最前線 教育

The Front Line of Education

新しい学習指導要領が今年度からスタート

～「生きる力」の育成をめざし「総合的な学習の時間」が創設～

月に本番を迎えました。この間、各学校は「自ら学び、考え、主体的に判断する能力（生きる力）」の育成を目的とする総合的な学習の授業をいろいろと試行してきました。

学習に受け身の日本の子供たち

日本の子供の基礎学力が高いことは、国際教育到達度評価学会（IEA）の数学・理科教育調査や、経済協力開発機構（OECD）の学力到達度調査（PISA）など、権威のある学力調査で証明されています。特に数学や理科は常に世界のトップレベルにあります。

しかし、気になる傾向も指摘されています。日本の子供は、知識を吸収したり、暗記したりすることは得意だが、自分で調べたり、自分で判断したり、自分の考えを表現したりする力が弱いという

ことです。PISAでは、日本の子供は自分の勉強をする時間が少なく、参加国中で最下位。また、読書をしないと回答した子供は最も多いことを示しています。つまり、日本の子供は学習に対して受け身で、自ら主体的に学び、考え、表現することが苦手なのです。新学習指導要領では、多くの知識を教え込む教育から、自ら学び、自ら考える力を育てる教育への転換をめざして、総合的な学習の時間が創設されたのです。

総合的な学習は教科ではありません。授業内容は具体的に決められておらず、教科書もありません。学習活動の例として、国際理解、情報・環境・福祉・健康などが挙げられています。これはあくまでも参考です。実際の内容は、地域、学校、子供の実態に応じて、学校が創意工夫して特色ある活動を行うべきであるとしています。要するに自ら学び、考え、主体的に判断する能力・方法・態度を身に付けるという趣旨に即したものであれば何でもよいのです。従って、テスト成績によって数値的に評価することはできず、入試の学力検査の対象にもなりません。

(単位:%)

ロシア	19	17
イギリス	29	9
フランス	30	11
韓国	31	12
カナダ	33	10
オーストラリア	33	12
スイス	35	8
アメリカ	41	8
ドイツ	42	9
日本	55	8

● 全くしない
● 1日に1～2時間

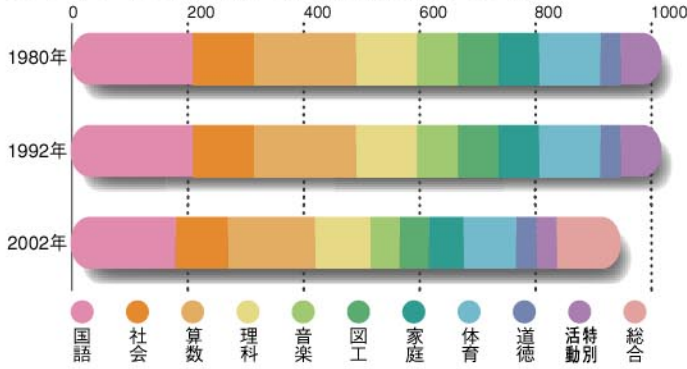
◎読書を楽しむ時間の国際比較 (PISA)

※15歳の青年対象
主な国を抜粋
公表時期:2001年12月

授業時間の削減で 学力低下への懸念も

教育内容の大幅な削減と、何を
するのか分かりにくい総合的な
学習の時間の特設。新学習指導要
領の告示当初から、子供の学力の
低下を懸念する声は上がってい
ます。「ゆとり」が「ゆるみ」になり、
学力の向上につながらないと危
惧する人も少なくはありません。
特に「分数ができない大学生」(西
村和雄・京都大学教授ほか)が話題
になったあたりからは、新学習指
導要領が学力低下をもたらすと
いう批判がますます強まり、学力
をめぐる論争が活発になりました。

◎小学5年生の授業時間数の推移(単位:時間)



文部省も昨年1月に文部科学
省に変わった頃から「ゆとり」や「生
きる力」をほとんど強調しなくな
り、学力低下への具体的な対策を
次々に打ち出し始めました。大規
模な学力調査を毎年行うこと、学
習指導要領は最低基準であって、
これを超える発展的内容を教え
てもよいこと、学習指導要領の内
容を超える教科書でもよいこと、
発展的学習や小学校での教科担
任制などを推奨する学力向上フ
ロンティアプランの宣言、土曜日
の積極的な活用法として塾の協
力を歓迎すること、などです。

家庭や地域の環境が 学力格差を生む恐れ

教育内容を削減したうえで、発
展的学習を奨励し、読書、補習、宿
題、塾の協力などを強調するとい
うことは、学力向上には子供の意
欲や家庭、地域の協力が重要とい
うことを意味します。それは当然
のことですが、問題もあります。
新学習指導要領は、学習への意欲
や態度の育成を眼目としていま

すが、実際には学習意欲があり、
学習態度がよく、恵まれた地域・
家庭環境にある子供だけが学力
をますます向上させ、学習意欲が
低く、家庭環境に恵まれない子供
はさらに学力を低下させるとい
う危険性を伴っています。

子供の学力に関心が高く、経済
的に恵まれた親なら、休みになっ
た土曜日は塾で勉強させようと
考えるかもしれません。また、何
をしてよいのなら、総合的な学
習の時間に受験のためのドリル
をしてほしいと期待する親も出
てくるでしょう。しかし、それ
で子供の本当の学力が伸びてい
くかは疑って見る必要があります。
かつて批判された受験競争と受
験学力の復活かもしれません。

学校、家庭、地域の より強いスクラムを

ゆとりの中で「生きる力」を形
成することをめざしている新学
習指導要領は、始まった当初から
厳しい試練に立たされています。
子供が自ら学び、考え、主体的に
判断する能力や態度を身に付け
ることが、今後、ますます重要で
あることは間違いないでしょう。
しかし、そのねらいを実現するた
めには、家庭や地域の理解と協力
、学校教育への参加と監視が必要
です。つまり、学力とは何か、総合

的な学習をどのように創り上げ
るかなどの問題を、教師、親、地域
が協力して考えていかなければ
なりません。総合的な学習の時間
はまだ始まったばかりで、学校現
場でも試行錯誤が続いています。
各地から優れた実践例が報告さ
れる一方、教科のドリルに置き換
える例も増えています。総合的な
学習を意義のあるものにするた
めには、まだまだ研究しなければ
ならない課題が山積みです。

兵庫教育大学でも平成12年度に、
教育方法分野、情報分野、環境分野、
異文化理解分野の4分野からな
る「総合学習系コース」を学部お
よび大学院に新設。総合的な学習
が抱える諸問題に対応するため
の研究に取り組んでいます。



兵庫教育大学 「総合学習系コース」

◎教育方法分野

児童・生徒の実態に即して、総合的な学習をいかに学校教育の中
で実践していくのかを、目標・方法・教材の側面から考える。また、ど
のような資質・能力が育成されるのかも研究する。

◎情報分野

人間社会の多様な情報とその利用を支える情報処理システムと通
信ネットワーク。これらを利用したより豊かなコミュニケーションという
観点で、情報科学と情報教育の立場から理論的・実践的な研究を
する。

◎環境分野

環境について、現状はどうなっているのか、その理解のために何が必
要か、学校教育では何をどのように教えればいいのかを考える。生態
系、食物・水と環境汚染などに関して先端的な研究を行う。

◎異文化理解分野

人類は200万年もの間、見知らぬ世界をめざして長い旅を続け、世界
各地にそれぞれの風土に応じた特有の文化を育んできた。人類がた
どった軌跡とその文化を理解するための理論・方法論を研究する。

「総合的な学習の時間」の定着に向けて課題と解決策を探る

さまざまな課題を抱えたままスタートした「総合的な学習の時間」。しかし、始まった以上は、総合学習の意義を達成させなくてはなりません。そこで、総合学習系教育講座の佐藤真助教授、自然系教育講座の國岡高宏助教授、そして教育現場を代表して附属小学校の高橋藤一郎教諭に、総合学習のあり方や課題などについて語っていただきました。

まずは「総合的な学習の時間」が創設された背景とその趣旨について聞かせてください。

佐藤 総合的な学習のねらいの一つに「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする」とあります。今までの学校教育は習熟・習得が中心で、知識の蓄積が学力だと捉えていました。総合学習が創設された背景の一つに一連のオウム事件が考えられます。あの事件で優秀な学生たちは己の知を使う方向性を間違っしてしまいました。習熟・習得ばかりではなく、探究・研究にも重点を置き、自らの知をどのように発揮するか。総合的な学習は「知の総合」と言われるように、各教科で得た知を機能的に発揮する場だと思えます。——近年、子供の学力が低下していると言われますね。

ないですが、関心・意欲・態度は国際的な調査でも非常に下がってきています。10年前から実施された「ゆとり教育」により学習内容を易しくして関心・意欲・態度を伸ばそうとしましたが、それが裏目に出ています。易しくしたこと、生徒の学習への意欲はさらに減退してしまっただけです。



佐藤真 Sato Shin
総合学習系教育講座助教授
専門分野は教育方法学「総合学習を中心とする教育内容・方法論、教材論、学習・授業評価論」。
「子供は授業で何を学んでいるのか。総合学習を見れば分かります。さあ、学校へ行きましょう！」



10年前の学習指導要領の改訂で、関心・意欲・態度の形成を目的に、総合学習の先駆ともいえる生活科が導入されましたが、成果は上がらなかった。佐藤 10年前は、関心・意欲・態度と知識・理解とを対比させてしま

い、両者の相互関連が重要であることを見失ってしまいました。本来、知識・理解と結びつけながら、関心・意欲・態度を向上させるべきなのに、関心・意欲・態度だけに焦点を当てた授業になってしまったのだと思います。高橋 最近、附属小学校でも、学ぶことに淡白な子供が増えてきたことが問題になっています。教員の反省会では、学習指導のあり方が淡白であったか、効率的でなかった点があるとの指摘がなされました。ゆとり教育で「知識を教え込んではいけない」「教師の子供への関わり方は指導ではなく、支援である」と唱えられ、授業中、教師と子供との間に距離感ができてしまった。この10年は現場の教師も、支援とは何か、知識を教えるはいけないのならばどうすればいいのかと戸惑いがあつたと思います。——教科時間の削減により学力低下問題がさらに深刻化する中、受験競争に拍車をかける動きや、総合的な学習を教科学習に充てるという話も入ってきています。かつて批判された受験学力が復活するのではないのでしょうか。

國岡 大学入試レベルの受験数学が得意な人は数学を理解している人です。入試問題は公式を丸暗記しても解けません。ところが近年、センター試験などが易しくなり、丸暗記でもこなせてしまう問題も出てきた。これは数学の学習の仕方を歪めてしまっている。これは誤解?! 新学習指導要領についてのQ&A

これは誤解?!

新学習指導要領についてのQ&A

「円周率が3.14から3になる?」
新学習指導要領が始まり、世間ではこんな噂が広まっています。自分たちが子供の頃は、円周の長さや円の面積を3.14を使った面倒な計算で出していたのに、なぜ?...と疑問に思う人もいるでしょう。しかし実際は、最低基準の学力を確実に身に付けさせ、さらに考える力を育むための配慮が、誤解を招くような形で伝わっているのです。

Q 円周率は「3.14」ではなく「3」で教える?

A 違います。円周率については「3.14」と教えるだけではなく、本当は3.1415...とどこまでも続く数で「3.14」も概数にすぎないということを従来通り、きちんと教えます。なお、円周率については、今までも「目的に応じて3を用いること」となっており、これは、およその長さが知りたい場合には「3」を用いて計算するなど、さまざまな状況に応じて自分の判断により、使い分けられるようにするためのです。

Q 小学校では、台形の面積を求める学習は行われなくなる?

國岡高宏 Kunioka Takahiro

自然系教育講座(数学)助教授
専門分野は数学教育学「数学学習における理解と表象」。
「応用する元のもの何か。総合学習は、それを再確認する良い機会だと思います」



なかつたのかと思いますね。

佐藤 受験学力と本当の学力が同じか違うかは、テストの内容を分析しないと分かりません。テストはどこかを切り取って標準化されるわけですから、その切り取り方、設問の作成法を一番問題にするべきだと思います。

——総合的な学習の時間をどう使うかは各学校の自由裁量です。附属小学校ではどのような授業をしていますか。

高橋 「人間として生きぬく力を育てる」を教育目標に、2つの領域を設定しています。一つは課題探究活動領域といって、国際交流、福祉、人権など今日的な課題についての学習です。もう一つは集団表現活動領域です。例えば、さまざまなテーマを体や言葉、歌、造

形などで表現し、最終的にミュージカルをつくります。

——総合と教科の学習を結びつける工夫をされていますか。

高橋 授業内容については総合と教科の関連は考えやすいのですが、能力面での関連をどのようにしていくかは発展途上です。総合で培おうとする力と教科で培おうする力はそれぞれ独自のものなのか、共通性があるのか、あるいは互いに育て合っていくのか。能力面での関連性をしっかりと考えていく必要がありますね。

國岡 総合の時間に、例えば、計算が必要な調べ学習をするとしても、総合は教科ではないので評価の対象外ですが、そこで身に付いた計算力は算数、数学で評価されます。そのような授業をしている学校としていない学校としては、学力の格差が生じるのではないのでしょうか。このあたりの問題をクリアにする手だてを打つべきだと思っています。

——学習指導要領はすべての生徒に保証する学力の最低基準となりましたが、授業に何らかの影響が出るのでしょうか。

國岡 算数に関して言えば、時間調整の関係で一部の単元を上学年に先送りしただけで、内容自体は易しくなったわけではあり



ません。最低基準は必ず身に付けさせるよう、文部科学省が教師にハッパをかけている意味もあると思います。実際、小学校で基本的な計算力を身に付けていなければ、中学生になった時に本当に困りますから。

佐藤 子供に基準の学力を必ず身に付けさせなければならぬと定められたことで、学校の責任はより増えますし、保護者も自分の子供がきちんと学力を身に付けているかを絶えず確認していく必要があります。

——文部科学省では最低基準を超える発展的な学習も認めています。従来の学習からどの方面へ発展させればよいでしょうか。

佐藤 今の子供が進級するにつれて獲得しているのは、学力ではなくて無力感。それは、教わることだけが「学び」だと思っているからです。職人の方の世界では「学び」を真似る・盗むと言うように、習熟だけが「学び」ではありません。子供たちが将来、どんな職業に就いても対応できるように、総合学習を通じてさまざまな「学び」の模式を感じ、「学ぶことの意味」を気づかせる。また、退職後に習い事

をする人が増えているように生涯学習体系が確立しつつあります。今や、80年以上の人生を見通した「学び」が必要なのです。

——完全週5日制になりましたが、学校外での有効な時間の使い方にについてアドバイスはありますか。

高橋 総合的な学習を定着させていくためにも、総合の中身を子供の日常体験から生まれてくる学習、かつ学校ではできない学習に充ててもらえればと思います。

佐藤 そのためには、学校は総合学習の内容を家庭や地域にもオープンにし、保護者にも学習に参画してもらいたい。「総合ではこういう力を身に付けるのか」「学校ではこんなことを学んでいるのか」と、保護者が総合について理解すれば、休日に親子で図書館へ行くことができますし、調べ学習や体験学習もできます。

高橋藤一郎

Takahashi Toichiro
附属小学校教諭
学年主任(第5学年)、理科主任、総合学習主任。
「子どもたちは、瞳を輝かせる時、価値ある学びを創る、それが総合学習!」



——どうもありがとうございます。学校と保護者、地域が連携を取り合うことが大事だと思います。

——ありがとうございます。ぜひ、ごさいました。

A これも違います。確かに、学習指導要領では「台形の面積の公式」を扱いませんが、台形の面積を求める学習はこれまで通り行います。これは、台形の面積を求めるときに、公式(上底+下底)×高さ÷2の暗記に頼りがちであったこれまでのやり方を改め、自分の頭で考えて、高さが同じ三角形を組み合わせるなど、工夫して面積を導き出すことが大切だと考えているからです。

Q 子供たちが学習する漢字の数が減る?

A 小・中学校を通じて身に付けさせる漢字の数は以前と変わりません。なお、漢字の指導では「読み」よりも「書き」の方が身に付けるのに時間がかかるため、小学校では「書き」について繰り返し学習し、より確実に書くことができるよう指導することになりました。

Q 中学校で学ぶ英単語の数が大幅に削減される?

A これまで、中学校で学ぶ英単語の多くを国が示していましたが、新学習指導要領では代名詞や前置詞など、文章を作るうえで必ず用いなければならない単語に限っています。それ以外の名詞や形容詞など、どの単語を教えるかについては各学校の判断に任せられました。ただし、これは決して英単語や文法の暗記の必要性を否定するものではなく、子供たちが日常生活に必要な語力を身に付けるために、各学校がより創意工夫を生かした授業を行うことができるようになるためのものです。

本学は教育研究と実践の双方を常に意識し、さらにそれらを繋げる実践研究を創造する使命を担っています。当講座でも、乳幼児から小学校低学年までの子供たちの育ちについての実践研究を日々構築することを目標としています。そのためには、大学での研究はもちろん、地域の幼稚園等との連携が欠かせません。中でも附属幼稚園は研究と実践の融合の場であり、かつ情報・人的交



流が活発になされる場でもあります。大学と附属幼稚園の連携を密にするため、共同研究プロジェクトを意図的に継続して行っています。特に、一昨年の幼小連携に関する研究は学長裁量経費や、2

教育現場との密接な連携で 子供たちの育ちを実践研究

年間にわたる文部科学省の保育内容に関する開発プロジェクトの研究経費をいただき共同研究を進めました。3月に報告書を行したところです。

内容は、主に大学での授業が実習生にどのように寄与し、実習ま

でにどのような力が獲得されているのかを最終目標としたものです。まず、保育内容とはどのようなものであるか、周辺地域の公立幼稚園の事例を分析し、附属幼稚園の教員と大学教官が教授している内容を比較し、その内容が

我々が本場の目的としている保育者としての資質が形成

されるにあたって効果を上げていくのかを検討しました。方法論には差異があるものの、まず実習前につけて欲しいと思っっている事柄と、実習生の実態、また意見を合わせることで、より必要な内容を具体的に明らかにすることができたと考えています。

また実践研究として構築するには、このような成果について、研究分担者以外に周辺地域の多くの保育所や幼稚園、小学校低学年の教師の意見を聞きたいところです。そこで約4年前から、毎月第4金曜日の午後6時半から「オープン・ゼミ」を開き、提案者を1名決めディスカッションしています。関心のある人が参加できる方法を取り、常時15〜20人の学部生や院生、附属教官、講座の教官、地域の幼稚園や小学校の教師が集まり同等の立場で討論しています。時には悩みも交えながら笑ったり泣いたり、日付を超えることもあります。

参加した現場の教師は「保育現場での問題について深く考える機会を持てる」「すっきりした気

持ちになり、月曜日からの実践の場での活力を得ることができると言ってくれます。大学にいる私たちも、本音で語られる現場の悩みを聞きながら、今どのような研究テーマが実践と結びつくものとして緊急を要しているのか教えられます。



幼年教育講座教授
© Nasukawa Tomoko

名須川知子

オープン・ゼミでは信頼関係が大切なものとして堅持され、教え、学ぶ関係以上に「学び合い、響き合う」関係がつけられています。これはゼミの世話役として一番気を使う点です。参加者一人ひとりの心はオープンですが、時に話す内容はクローズでなくてはなりません。必要以上に他人を傷つける言動は慎むよう互いに気を付けています。

The letter from laboratories.

地学分野を核とした 地域独自の教材の開発

その時、「数年後に総合的な学習の時間が始まるが、すべては各学校の創意工夫に委ねられている。教材として各学校の近くで見られる自然現象を取り上げるのが、一番いいと思うが、小・中学校の教員には自然観察の訓練、特に地学分野に関わる訓練を受けた人が非常に少なく、何をとり上げられるのかの判断に困っている」という数多くの教員の切実な思いを知りました。

そこで、姫路近辺で具体的な地域教材を選び、市科学館の協力を得て市内の小・中学校の理科教員を対象とした野外観察会をこれまで12回ボランティアで開催し、身近な自然の解説をして彼らの「ものを見る目」を育ててきました。

「ものの見方」を体得すると、教員自らが自分の目で自然を観察し理解することの面白さ・大切さが分かり、それを生徒たちに伝えることができる」と好評のようです。付随的な効果として、さらに詳しく研究したいと、数名の参加者が修士課程に入学するようになりました。

この活動は、学習教材として最適な現象・事物を地域ごとに具体的に取り上げて、地域独自の教材

を開発し、地域の教員に例示することを目的に始めたもので、適切な副読本や指導書などがあると便利です。地学分野のガイドブックは数多く出版されていますが、地学的な訓練が十分でない人に



を開發し、地域の教員に例示することを目的に始めたもので、適切な副読本や指導書などがあると便利です。地学分野のガイドブックは数多く出版されていますが、地学的な訓練が十分でない人に

地方、さらには日本全国と違って、ほんの数人のスタッフではとても無理です。その際、力になるのが修了生のネットワークです。本学修士課程の修了生は全国に散らばっており、大きな財



自然系教育講座(地学)教授
© Nishimura Toshiharu

西村年晴

同講座助教授
© Takemura Atsushi

竹村厚司・竹村静夫

産です。

この財産を活かすために、まずは地学教室の修了生が情報交換・活動報告できる場として「地域教材開発交流支援全国教育研究協議会」をつくり、活動しやすくなるようにしています。現場復帰後も活発に活動している修了生と共同で教材開発を行うというこの研究は、本学のような大学であってこそできるものだろうと思います。

修士論文指導について

3年以上の教職経験者が学生の3分の2を占める大学院修士課程。修了するためには、共通科目と専攻科目(総合科目・専門科目・課題研究)を32単位以上修得し、修士論文を提出して審査に合格することが必要です。

共通科目と総合科目は、教員としての幅広い、かつ高度な専門性を得させることを目的としています。課題研究は、学生が自らの課題について研究を展開し、指導教官は工夫を凝らした方法でサポートします。

修士論文研究は、学生が教育現場から持ってきた実践的課題や、入学後に関心を持った課題を研究し、論文にまとめます。学生が自分の課題を検証可能なレベルに高め回答を得ていく過程では、指導教官との入念な討議が重ねられます。この討議は、教官が修士論文指導を通じて学生に伝えたい熱い思いを基礎にしたもので、学生にとって生涯の財産となるものです。

修士論文指導を通じて院生に伝えたいもの・期待すること



教育経営講座教授
吉田 寿夫

私の修士論文指導に関するキーワードは「クリティカル・シンキング(略してクリシン)」です。これは、自分や他の人の思考に対して、「他には考えられないか」「何か不適切などころはないか」「常識にとらわれてはいないか」などと、あれこれ批判的に考えてみることです。

私は、大学院生たちに子供のことや自分自身のこと、そして教育現場で行われている研究などについて、少しでも今以上に柔軟で冷静な考え方ができるようにしてほしいと思い、自分の思考に対して適切なクリシンを働かせるための基礎的な知識や具体的な練習方法を伝えようとしています。「考

クリティカル・シンキング
クリシンって呼ぶよ



えなければ考える力はレベルアップしない」がモットーです。

また、心理学の知見や考え方の多くは、子供たちがそれを知ることにより適切な自己理解・他者理解が促され、さまざまな意味での彼または彼女らの社会的適応に役立つと考えています。ですから、そのような心理学の知見や考え方を折にふれて子供たちに適切に伝えてもらうための知識も身に付けていってほしいと思っています。「心の教育」というよりも「心のしくみについての教育」といったものです。



自分の思考に対して適切な「クリシン」を



生活・健康系教育講座
(家庭分野)教授
松村 京子

私の研究室では、乳幼児と児童・生徒とが交流する時に両者がどのような関わり方をするか、行動を分析したり、乳幼児とその対面者の情動反応を生理学的な手法を使って測定したり、乳幼児理解のための教材やカリキュラムの開発をしています。

修士課程は2年間ですが、最近は専修免許、図書館司書教諭、養護学校教諭、学校心理士、臨床発達心理士と、資格の取得をめざす人が多く、実際に研究にかかることができる時間は非常に少ないのが現状です。そのような中で、何とか研究の楽しさを知ってもらいたいと思っています。



TBS「ニュースの森」の「赤ちゃん研究最前線」の取材から

研究の楽しさは、知りたいことを明らかにするために考えたり、調べたり実験したりするプロセスにあります。その結果、明確な知見が得られた時には、この上もなく嬉しくなることは言うまでもありません。そしてもう一つの楽しさは、研究をする時にいろんな人と関わることだと思います。チームを組んで研究を進めたり、学会で他大学の人たちと論議したり、被験者の赤ちゃんやそのお母さんと話したり、研究を通じての人との関わりは大変楽しいものです。そのような楽しさを体験してもらうことも私の願いです。

Campus Watching

人との関わりも研究の楽しさ

現職教員の実技指導能力を向上させるための講座

走る・跳ぶ・投げる・教えるの“こつ”をつかみ、現職教員の体育分野(陸上運動・陸上競技)における指導能力の向上を図ります。

①7月6日、13日、20日、27日・13:00～15:00 ②大学陸上競技場・体育館 ③5人 ④5,800円 ⑤現職教員等 参加受付:6月7日～20日

スポーツが好きになる親子教室

—泳ぎを好きにさせる水泳指導など—
親子で多種多様なスポーツに挑戦し、体を動かすことの大切さ、楽しさを学びます。
①7月13日、14日、20日、21日、9月7日、28日、10月5日、19日、26日、11月9日・13:30～15:30 ②大学プール・体育館ほか ③30人 ④7,800円 ⑤小学校低学年児童の保護者 参加受付:6月13日～26日

陶芸入門

「焼きもの」のデザインから制作までを体験できます。今年度は絵付けや陶彫技法を取り入れ、加飾面に重点を置きます。
①9月7日、14日、21日、28日・10:00～16:00 ②大学芸術棟(窯芸実習室) ③15人 ④7,800円 ⑤一般(陶芸経験者、過去の受講者が望ましい) 参加受付:8月7日～20日



理科実験・観察のランドココ

物理・化学・生物・地学の各分野から選んだ実験テーマを通じ、理科の実験や観察に役立つポイントを学びます。
①9月20日、27日、10月4日、11日、18日、25日、11月1日、8日・18:30～20:00 ②大学自然棟(地学実習室) ③12人 ④6,800円 ⑤小中高校教員および一般 参加受付:8月20日～9月2日

～兵庫教育大学と地域の交流ページ～

う れ し の 交 差 点

公開講座の受講生募集

①開講日・時間 ②開講場所
③定員 ④受講料 ⑤対象者

兵庫教育大学では、教育研究の成果を広く社会に提供しようと、一般の方や現職教員、児童・生徒の保護者を対象に「公開講座」を開いています。教員養成系大学の特色を生かした講座内容で、みなさんの多様な学習意欲にこたえます。どうぞふるってご参加ください。

ピアノを弾こう!

ピアノを始めたいと思われる大人の方に、初歩から懇切丁寧に指導します。最終日にはミニコンサートを予定しています。

①10月5日、12日、19日、26日、11月2日・13:00～16:00 ②大学芸術棟 ③6人 ④6,800円 ⑤一般(18歳以上・音大出身者を除く) 参加受付:9月5日～18日

発達が気になる子どもの家庭療育の方法

保護者一人ひとりに、ABA(応用行動分析)を使った、家庭でも取り組める子供の発育を促すプログラムを指導します。
①10月19日、26日、11月2日、9日、16日、30日、12月7日、14日、21日・14:00～16:00 ②大学院神戸サテライト ③20人 ④7,800円 ⑤発達に気になる子供の保護者 参加受付:9月19日～10月3日

絵画制作

今年度は油絵制作を基礎から指導します。表現や創作の楽しさを体感し、専門的な知識が身に付けられます。

①11月8日～11日(4日連続)・13:00～18:00 ②大学芸術棟(絵画実習室) ③20人 ④7,800円 ⑤一般 参加受付:10月7日～21日

兵庫 一人物と風土

兵庫県出身の偉人、郷土の風土性などを講話とスライドで多角的に学びます。ふるさとを再発見できる機会になります。
①平成15年2月1日、8日、15日、22日、3月1日・13:30～15:00 ②附属図書館ライブラリーホールなど ③50人 ④5,800円 ⑤一般 参加受付:平成15年1月7日～17日

Books

「痛快!コンピュータ学」

坂村健著 集英社インターナショナル

推薦人:伊藤博之(教育方法講座)

コンピュータやネットワークの仕組みを網羅的に分かりやすく解説する良書は今まで皆無に近かった。このような状況に危機感を抱いたのが、15年前にTRONプロジェクトを引っ提げ官民を巻き込んでの一大ムーブメントを築いた坂村健氏。その彼が「大学で教えているコンピュータ科学の講義レベルを下げずに、しかも、面白く、分かりやすい」ことをめざしたのが本書である。この本を通じて、コンピュータは実はとても融通の利かない輩で、大抵は単に力づくで仕事をしているに過ぎないものであると理解できればしめたもの。そうすれば、コンピュータに期待していいことと悪いことを冷静に考える土台は整った。後は「自分の頭で考える」に如くはない。



附属図書館で見つけたおすすめの一冊

「どつきどづかれ 岸和田ケンカ青春記」

中場利一著 徳間書店

推薦人:庭瀬敬右(自然系教育講座)

この本は分かりやすい。題名そのままである。学校の先生をめざす学生諸君にはぜひ読んでほしい(?)。先生になれば、いつ何時、荒れた学校に赴任するかもしれない。この本を読めば乱暴な生徒の気持ちも少し分かるかも。「どつきどづかれ」しているのに暗く、じめじめしたところは微塵も無い(仁義と友情があるから?)。さわりの部分だけ紹介しておこう。主人公がケンカに負けて帰ってきたとき、「殺してしまえ!」などと平気で言う父や祖父をたしなめた母は、「殺さんでもええから、耳のコマクが破れるくらいにどついたり」とそっとフライパンを手渡して、「はよいっといでや、もうすぐパンメシやで」…ウーム、すごい世界である。これも一つの教育?



附属施設 リレー紹介

第1回 附属小学校



案内人
田中亨胤校長

教育目標は「人間として生きぬく力を育てる」。この目標を要として、附属小学校には七つの特徴があります。

- ①チャイムがない：学習活動の節目を感じさせ、生活の自立を促すためです。
- ②給食がとにかくおいしい：その味は全国表彰を受けるほどです。
- ③1年生の教室が附属幼稚園の近くにある：児童と園児の教育交流をしやすいです。
- ④さまざまな文化交流：国際交流はもちろん、各地から転入してくる児童も多く、互いの良さを認め合っていく機会となっています。
- ⑤縦割りや異学年による学校活動：年齢の異なる児童同士が時間を共有することで、他人を敬う気持ち、思いやる気持ちを育みます。

- ⑥卒業論文を書く：児童の知・技・体験・感性・人間性などが感じられ、「生きる」ことへの勇気と元気がまとめられています。
- ⑦教師の情熱：ひたむきに、細やかに、児童の学習活動に寄り添っています。

このほかにも、附属小学校にはさまざまな魅力があります。みなさんも一度、校内をのぞかれてはいかがでしょうか。



給食は子どもたちの元気の源

設置年：1980（昭和55）年
教育目標：「人間として生きぬく力を育てる」
学級編成・児童数（平成14年5月1日現在）：各学年3組・535人



卒業生からのメッセージ

Messages From OB&OG



美作女子大学講師
中内みさ

平成12年度大学院博士課程
学校教育実践学専攻学校教育臨床講座修了

大学では教育相談など臨床心理系の科目を担当しています。学校教育に心理臨床をどう取り入れていくかについて、いかに学生に教えていけばいいのか、まだ手探りの状態です。

大学院には修士・博士課程の計6年間在籍しました。院は先生方や多くの仲間たちとの出会いの場であり、教育実践学との出会いの場でした。私にとっての教育実践学とは何か、を明確にすべく今後も研究と実践に励んでいきたいと思っています。



姫路市立広畑小学校教頭
小川道久

昭和60年度大学院修士課程
教科・領域教育専攻自然系コース修了

大学院での論文指導や雑談の中での指導教官の教えが今も私の教育活動の支えです。現在、「先生のための野外観察会」を開き、先生のものを見る目を育てることに力を注いでいます。

学校は、子供が「未知なるものを知るところ」で「分かった」「できた」の喜びは何にも代え難いものです。「分かる」ことは教育にとって一番の武器です。大学では現場ですぐに役立つこととともに、教科の基礎に関する研究にも力を入れていただきたいと思っています。



岡山県
熊山町立豊田小学校教諭
羽原敬一

平成2年度学校教育学部学校教育専修卒業

教壇に立って12年目。子供たちの頑張りや成長を楽しみに日々の実践に取り組んでいますが、何事もうまくいくことばかりではありません。そんな時、実地教育のことを思い出します。

入学から4年まで系統的に現場で学べたのは意義深いことでした。3年次の附属小学校での実習では、子供たちがぐんぐん伸びていく様子に教員とはこんなにやりがいのある仕事なのだと思ひ、絶対に教員になろうと思いました。実地教育は私の教員生活の原点でもあります。

Campus Topics

キャンパス・トピックス

2002.1～6

フレンドシップ事業の 5周年記念シンポジウムを開催

1月30日(水)、附属図書館で「平成13年度兵庫教育大学フレンドシップ事業シンポジウム」を開催しました。フレンドシップ事業とは、兵庫県教育委員会との連携により、児童・生徒やその保護者を対象とした同委員会主催のサマースクールに兵庫教育大学の学部生が指導補助者として参加実習を行っているもので、今年度はこの事業の5周年を記念してシンポジウムを開きました。

「すぐれた実践的指導力をもつ教師とは何か—21世紀の教師としての力量形成をめざす教員養成大学の役割と可能性—」をテーマに、中野直行氏(兵庫県教育委員会総務課教育企画室長)、廣田元滋氏(兵庫県小学校校長会事務局長)、中野景介氏(神戸新聞社社会部長)、佐藤光副学長がパネルディスカッションを展開。八尾坂修氏(奈良教育大学教授)の記念講演も行われ、学校教員など参加者たちは熱心に聴講していました。



- 1月**
- 17日
 - ◎附属中学校立志式
 - 19日～20日
 - ◎平成14年度大学入試センター試験
 - 29日
 - ◎学校教育学部推薦入学試験
 - 30日
 - ◎フレンドシップ事業シンポジウム
 - 31日～2月1日
 - ◎附属小学校研究発表会

- 2月**
- 17日
 - ◎大学院連合学校教育学

- 研究科入学者選抜試験
- 19日
 - ◎ファカルティ・ディベロップメントシンポジウム
 - ◎ソウル教育大学校との学生交流に関する懇談会
 - 23日
 - ◎附属小学校うれしのフェスティバル
 - 25日～26日
 - ◎学校教育学部前期日程入学者選抜試験
 - 27日
 - ◎学校教育学部私費外国人留学生特別選抜試験
 - 28日
 - ◎運営諮問会議(第2回)

- 3月**
- 12日
 - ◎学校教育学部後期日程入学者選抜試験
 - 13日
 - ◎附属中学校卒業証書授与式
 - 14日
 - ◎放送大学との単位互換協定調印式
 - 18日
 - ◎附属幼稚園修了証書授与式
 - 19日
 - ◎附属小学校卒業証書授与式
 - 25日
 - ◎大学院学校教育研究科学位記授与式

- ◎学校教育学部卒業式
 - ◎大学院学校教育研究科(夜間クラス)学位記授与式
 - 26日
 - ◎大学院連合学校教育学研究科学位記授与式
 - 27日
 - ◎外部評価会議
- 4月**
- 8日
 - ◎大学院学校教育研究科入学式
 - ◎学校教育学部入学式
 - 9日
 - ◎附属小学校入学式
 - ◎附属中学校入学式
 - 10日
 - ◎附属幼稚園入園式

- 12日**
- ◎大学院連合学校教育学研究科入学式
- 5月**
- 11日～6月22日
 - ◎公開講座「ガムランはともだち」(全7回)
 - 11日～6月29日
 - ◎大学連携ひょうご講座「学校教育改革の方向と課題」(全8回)
- 6月**
- 1日～7月13日
 - ◎公開講座「簡単ロボット製作で学ぶコンピュータの仕組みと制御」(全7回/大学院神戸サテライト)

運営諮問会議と 外部評価会議を開催

2月28日(木)に「平成13年度第2回運営諮問会議」、3月27日(水)に「外部評価会議」をそれぞれ新神戸オリエンタルホテルで開きました。運営諮問会議は、第1回に引き続いて「兵庫教育大学の新たな発展に向けて」を審議。中野正堯学長が「21世紀新構想大学プラン」などを説明し、各委員から兵庫教育大学の将来について幅広い意見が寄せられました。

一方、外部評価会議では、教育や報道関係者など学外の有識者が「修士課程の現状と課題」などについて意見交換をしました。教育、研究、社会貢献の観点から意見や提言が数多く出され、今後の教育・研究活動において大きな収穫を得ました。

平成14年度公開講座が開講 大学連携ひょうご講座にも参加

一般市民や教員を対象にした公開講座が今年度も始まりました。5月11日(土)から「ガムランはともだち」が、6月1日(土)からは「簡単ロボット製作で学ぶコンピュータの仕組みと制御」が開講。多数の受講生が詰め掛けています(今後の公開講座の日程・内容については9ページを参照)。

また、兵庫県と県内36大学などとの連携による大学連携ひょうご講座にも参加。5月11日(土)から、神戸市の兵庫県立神戸学習プラザで「学校教育改革の方向と課題」を開講しています。



ガムランはともだち



運営諮問会議

兵庫教育大学からのお知らせ

☎=問い合わせ先

◎平成15年度学生募集

☆学校教育研究科(修士課程)

◎専攻別定員

全300人

▶学校教育専攻…105人

(教育基礎コース、教育経営コース、教育方法コース、生徒指導コース、幼年教育コース、教育臨床心理コース〔昼間クラス、夜間クラス〕)

▶障害児教育専攻…25人

▶教科・領域教育専攻…170人

(言語系コース、社会系コース、自然系コース、芸術系コース、生活・健康系コース、総合学習系コース〔昼間クラス、夜間クラス〕)

※教育臨床心理コースと総合学習系コースは昼夜開講制です。昼間クラスは、兵庫教育大学(社町)で、夜間クラスは主に兵庫教育大学大学院神戸サテライトで受講します。

◎出願期間 7月16日(火)～29日(月)(消印有効)

◎試験日程 筆記試験…8月24日(土)、口述試験…8月25日(日)

◎合格発表 9月12日(木)10時

☎入学主幹室 ☎0795・44・2067

◎大学連携ひょうご講座秋期科目

「現代子育て考—すこやかに、豊かに—」
子育てにおける教育学的、心理学的、思想史的な観点から現代の問題点を捉え直し、子育て支援の内容の構築を目的とします。

◎場所

兵庫県立神戸学習プラザ(神戸交通センタービル4F)

◎開講日 9月14日～11月16日の土曜日(全10回)

◎時間 13:30～15:00

◎定員 約40人

◎受講料 1万2,000円

☎ひょうご大学連携事業推進機構事務局

☎078・392・0660 ☎078・392・0071

<http://www.hyogo-al.gr.jp/kouza/>

◆大学院神戸サテライトが移転しました

大学院神戸サテライトが4月1日から、神戸市のバルモア学院内に移転しました。修士課程夜間クラスの講義や公開講座の開催のほか、さまざまな事業も予定しています。



〒650-0012 神戸市中央区北長狭通4-7-30バルモア学院内 ☎078・321・1430
JR・阪神元町駅下車、東口から北へ約100メートル。市営地下鉄県庁前駅下車、東出口2から南東へ約100メートル。

◆心理教育相談室も新設

移転に合わせて、大学院神戸サテライト内に心理教育相談室を開設しました。主に学校や家庭において心理的援助を必要とする子供とその家族を対象に、カウンセリングなどで援助を行います。また、子供たちへの対応に悩んでいる教育関係者へのコンサルテーションも積極的に取り組んでいきます。

☎心理教育相談室 ☎078・321・1432

◎地域交流推進センターのご案内

生涯学習の支援や教育相談など、地域との交流事業を積極的に推進することを目的に、地域交流推進センターを大学内に設置しました。住民ニーズ、自治体ニーズにこたえるための総合案内を行っています。

☎庶務課広報・連携担当専門職員

☎0795・44・2053

◎『教養のための文献案内2002』を発売

言語系教育講座(国語分野)では『教養のための文献案内2002』を発売しました。本学の学部学生を対象に、研究や学習をするうえで、どのような本を読めばいいかを紹介しています。学生以外で、資料として活用したいという人へも貸し出しています。また、附属図書館、社町立中央図書館、図書情報センター(やしろ国際学習塾内)にも置いてあります。

☎前田貞昭研究室

☎0795・44・2083



◎体育施設の利用について

大学の体育施設を授業やクラブ活動に支障のない範囲で開放しています(有料)。利用できるのは体育館、武道場、陸上競技場、野球場、ソフトボール場、和弓場、テニスコートなど。

☎会計課管財係 ☎0795・44・2022

※あなたの学校の教育実践資料をご寄贈ください

●公開研究発表会の報告書

●研究紀要類

●教育関係グループ研究会の配布資料

●授業実践記録等

◎あて先

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1

附属図書館情報サービス係

☎☎0795・44・2062

Hyogo University of Teacher Education

編集後記

1月に特集のテーマが決まった時、一つの不安がありました。本誌が発行されるまでの間に、世論の動向や文部科学省の方針が大きく変化しているのではないかとことです。編集者は、座談会の当日まで文部科学省の発表を気にしながら追いかけていました。座談会は4月24日に行いました。文部科学大臣が新学習指導要領に問題があれば早期改訂もありうると表明したのは、4月28日のことでした。時代の要請にこたえることは教育の使命ですが、時代の流行や風潮に流されず、教育の本質について長期的な視野に立って考えることも必要でしょう。本誌を、教育について考え、話し合う素材として利用して下さることを願っています。忙しい中を座談会に参加して下さった先生方に感謝します。(み)

●『教育子午線』に先輩がいました。神戸大学の附属明石小学校が1990年に創刊した機関誌です。第3号まで発刊され、現在は、附属明石校園カリキュラム開発研究センターの機関誌『子午線』に継承されています。お断りして、本誌名は創刊号に引き続き使用することになりました。

◎あなたの声をお聞かせください

『教育子午線』では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりをめざしています。ご意見、ご感想、ご希望(取り上げてほしい教育テーマ)などがありましたら、どしどしお寄せください。

●あて先: 〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学庶務課

広報・連携担当専門職員 ☎0795・44・2053 ☎0795・44・2009

E-mail office-2053@office.hyogo-u.ac.jp

Kyoiku-Shigosen

教育子午線

第2号 2002年6月発行

発行/兵庫教育大学 広報誌編集委員会 URL <http://www.hyogo-u.ac.jp>

編集協力/(株)神戸新聞マーケティングセンター